

講義コード	11C0128720	授業形態	演習	事前登録の有無	なし	担当教員	田中 有紀	開講期	通年
科目名	ゼミナールⅠ(田中)								
履修前提条件						備考			
授業の目的	この授業では、東アジアの人々の「ものの考え方」の根本にあるものは何かを考えていきます。現在、観光や留学、仕事などの様々な理由から、訪日する東アジアの人々は増え続けています。また中国語や韓国語を学ぶ日本人も多くなっています。しかし、東アジアの国々は歴史や政治の上で互いに様々な問題を抱え、解決には至っていません。この授業では現代東アジアの政治や外交、経済的な様々な問題を取り上げると同時に、前近代の思想や歴史、文化に目を向け、これからの東アジア社会がどのようにあるべきかを模索していきます。また、音楽・美術・映画・サブカルチャーなど、自分の関心のある芸術や文化に対し、理論的に分析できると同時に、現代社会でそれらがどのような役割を果たすか、自分なりの見解を持つことも目的とします。このほか、ビブリオバトルを行い、ゼミ生が読みたい本も取り上げる予定です。さらに、フィールドワークを取り入れることにより、現代社会とのつながりを意識しつつ、伝統的な文化を学びます。最終的には、「東アジア社会に生きる人々の、「ものの考え方」の奥底に、どのような価値観が隠れているかを理解し、将来を担う国際人としての教養を得ること」、そして「芸術や文化を社会的問題として論じられるエキスパートになること」が目的です。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア社会の国際関係を歴史的視点を持ちながら説明できるようになる。 ・東アジアの人々の「ものの考え方」にはどんな共通点や差異があるのか、自分の関心のあるテーマ(思想、文化、芸術)に即して説明できるようになる。 ・芸術や文化を社会的問題として論じることができる。 ・テキストを正確に読み取り、その内容をわかりやすくまとめて報告できるようになる。 ・自分の意見を正確にまとめ相手に伝え、相手の意見を正確に理解し、グループ内で主体的に研究活動ができるようになる。 								
授業外学修内容・授業外学修時間数	報告担当者はテキストの指定された部分を読み、資料を準備します(8時間×3回=24時間)。また報告担当でない時は、授業での討議及び確認テストに備え、テキストについて図書館を活用して深く調べます(3時間×20回=60時間)。第14回で提出するまとめレポートは、あらかじめ家で執筆し、相互採点後には復習をしておいて下さい(16時間)。そのほか、自己紹介プレゼンテーション準備(2時間)、合宿における報告資料の予習・ビブリオバトル準備(9時間)、研究テーマ決定のための面接準備(9時間)があります。サブゼミナール(任意)の参加と予習なども含め、上記に示した授業外の学修は、120時間を目安に行ってください。								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス(ゼミで学ぶとはどういうことか)</p> <p>【第2回】ゼミ内の役割分担とグループ決め</p> <p>【第3回】自己紹介プレゼンテーション①</p> <p>【第4回】自己紹介プレゼンテーション②</p> <p>【第5回】文献の活用法を学ぶ(図書館での実習)</p> <p>【第6回】チームAの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第7回】チームBの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第8回】チームCの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第9回】チームDの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第10回】チームEの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第11回】相互プレゼンテーション(全員)</p> <p>【第12回】相互プレゼンテーション(全員)</p> <p>【第13回】テキスト全体の内容をポスター発表</p> <p>【第14回】まとめレポート相互採点</p> <p>【第15回】合宿の打ち合わせと夏期休暇中の課題説明</p> <p>※夏期休暇中：合宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目：3年生の報告に対し、討議をし、評価表を書く。 ・2日目：ゼミ生によるビブリオバトル <p>…皆におすすめしたい本を持ち寄り、その本の素晴らしさを語り、参加者は一番読みたいと思った本に投票する。</p> <p>【第16回】ビブリオバトル予備日</p> <p>【第17回】チームAの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第18回】チームBの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第19回】チームCの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第20回】経済を知るためのフィールドワーク</p> <p>【第21回】チームDの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第22回】チームEの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第23回】チームAの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第24回】文化と社会を知るためのフィールドワーク</p> <p>【第25回】チームBの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第26回】チームCの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第27回】チームDの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第28回】チームEの報告と討議、確認テスト</p> <p>【第29回】ビブリオバトル優勝図書を用いたゼミ生による講義</p> <p>【第30回】まとめ(ゼミナールⅡに向けての準備)</p> <p>※2・3月：研究テーマ決定のための面接</p> <p>※そのほか、外国語習得(中国語)のためのサブゼミナールも行う予定(ゼミナールⅡと合同、任意参加)。</p>								
成績評価の方法	確認テスト(2点×15回=30点) 報告の内容・方法(10点×3回=30点) グループワークにおける主体性(討議における発言の量や質、相互採点における取り組み、フィールドワークの積極的参加など、30点) まとめレポート(10点)								
フィードバックの内容	プレゼン資料の添削を通してフィードバックを行います。								
教科書	『中国思想史 上・下』森三樹三郎(第三文明社)1978、『東アジア近現代史』上原一慶[ほか]著(有斐閣)1990、『歌う国民：唱歌、校歌、うたごえ』渡辺裕(中央公論新社)2010								
指定図書									
参考書	『道徳を基礎づける－孟子 vs. カント、ルソー、ニーチェ』フランソワ・ジュリアン著、中島隆博、志野好伸訳(講談社)2002、『中国思想文化事典』溝口雄三、丸山松幸、池田久編(東京大学出版会)2001、『中国近世の宗教倫理と商人精神』余英時著；森紀子訳(平凡社)1991、『朱子学と陽明学』小島毅(放送大学教育振興会)2004、『中国思想史』武内義雄(岩波書店)1957、『中国の音楽論と平均律：儒教における楽の思想』田中有紀(風響社)2014、『科学史からみた中国文明』藪内清(日本放送出版協会)1982、『朱子学と陽明学』島田虔次(岩波書店)1984								
教員からのお知らせ	テキストについての詳細は開講後に指示します。 授業は水曜4・5限に連続して行いますので、両方参加して下さい。								
オフィスアワー	金曜3限(2号館2階218研究室)にて質問を受け付けます。 また、メール(tanaka.yuki@rissho-univ.jp)でも質問を受け付けます。								
その他									